

1 理念

児童へのきめ細やかな指導支援体制を確立し、一人ひとりに確かな学力をつける。
効果的な少人数指導のあり方について実践的な研究を行い、学力の二極化の改善・解消につなげる。

2 指導体制

- 1年生 TTで実施 時期により教科の変更あり(例1学期は国語科でTT/2学期は算数科でTT)
／ 単元構想作成：宇佐美先生
打ち合わせ：月曜日 放課後
- 2年生 3学級を均等割により4学級編制として実施
少人数担当：小坂先生 / 単元構想作成：日置先生
打ち合わせ：火曜日 放課後
- 3年生 各学級を習熟度別で2分割して実施
少人数担当：早川先生 / 単元構想作成：早川先生
打ち合わせ：火曜日 昼【給食・清掃指導 上杉(A組) 小坂(B組)】
- 4年生 2学級を習熟度別で2分割にして3学級編制として実施
少人数担当：早川先生 / 単元構想作成：早川先生
打ち合わせ：月曜日 昼【給食・清掃指導 中村(A組) 伊藤隆康(B組)】
- 5年生 各学級を習熟度別で2分割にして実施
少人数担当：中村 / 単元構想作成：中村
打ち合わせ：火曜日 放課後
- 6年生 各学級を習熟度別で2分割にして実施
少人数担当：中村 / 単元構想作成：中村
打ち合わせ：月曜日 放課後

※TTの場合は担任がT1、少人数担当がT2とする。

※少人数の場合は担任が「じっくり(教室)」、少人数担当が「ぐんぐん(少人数教室)」とする。

※単元構想には「アイテム」を位置づける。(昨年度の単元構想を更新)

※高少人数教室を「算数教室」として放課後に開放する。(中村不在時を除く)

※単元テストの実施と採点は、少人数担当が行う。採点基準は単元構想検討時に担任と少人数担当で確認しておく。

3 グループ編成と指導の重点

- ・グループ編成は、原則、児童と保護者の希望をもとに、担任と少人数担当で調整する。
- ・単元ごと、または領域別にグループを編成する。
- ・第1単元は、全学級TTで授業を行う。(児童の観察も含む)
- ・指導の重点を次のように定める。
 - 「じっくりコース」…少ない問題をていねいに扱い、時間をかけてじっくり学習内容を理解することで基礎基本の力をつけるとともに、活用問題にも取り組む。
 - 「ぐんぐんコース」…多くの問題を解いたり、自分で問題を作ったり、発展的な問題にチャレンジしたりして、思考力・判断力・表現力等を高める。

4 系統的な指導

「算数指導統一事項」「算数指導の系統表」を再確認する。(次回提案)

「算数用語の系統表」の作成と用語の確実な定着をめざした取り組みを行う。(後日提案)
基礎計算力アップを図る。

1年生…百ます計算(足し算・引き算)が最後までできる。

2年生…百ます計算(足し算・引き算・かけ算)が3分以内にできる。

3年生…百ます計算(足し算・引き算・かけ算)が2分以内にできる。

わり算(第三類型)50問を10分以内にできる。

※第三類型とは、あまりのあるわり算であまりを出す時に繰り下りの引き算をしなければならない問題のこと。

4年生…わり算(第三類型)50問を5分以内にできる。

5年生…わり算(第三類型)50問を5分以内にできる。

6年生…わり算(第三類型)50問を3分以内にできる。

5 分析・検証方法

～「D層をC層に」「B層をA層に」引き上げるために～

- ・単元テストを統一して実施し、分析と対策を行う。
- ・単元テストにおける誤答の原因を分析し、指導に生かす。
- ・単元テストにおける「平均点」「中央値」の「成果率」90%以上をめざす。
※「成果率」＝「じっくり平均点（中央値）」÷「ぐんぐん平均点（中央値）」×100
- ・単元テストにおけるD層児童の追跡調査を行う。
- ・全国学力・学習状況調査や総合学力調査IRT、みえスタディ・チェックの結果を分析し、課題解決のために少人数指導の改善を図る。
- ・QU調査の「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の学習意欲の項目4「勉強でできなかったことができるとうれしい」、項目5「授業中に質問に答えたり発言したりするのは好き」、項目6「よい成績をとったり勉強ができるように努力している」を分析し、改善を図る。

6 その他

◇朝学習の確認

- ・実施期間は、月～金曜日の8:30～8:45とする。
A週は国語「読解ドリル」「東員学び検定（昨年度の問題）」
B週は算数「アイテム」
- ・学年で統一して取り組みを進める。（学年の打ち合わせで確認する）
- ・指導のポイントを明確にするために教材研究を必ず行う。
- ・内容によって15分間の使い方を工夫する。【自力解決→見直し→解説】…**読書はNG!**
例えば… 7分間で解いて、8分間で解説を入れる。
15分間で解いて、次の日に解説を入れる。
※解説を入れることで、解答の仕方が分かる時間にする。
- ・書画カメラを活用し、視覚支援を必ず行う。
例えば…キーワードを赤で囲んだり、矢印で示したりする。
本文と問題文、本文と解答を線でつなぐ。

◇家庭学習

- 必須内容…音読（教科を限定せず）、漢字、作文・日記、算数、週末読書、+α
学習時間…学年×10分間+10分間
- ・間違っているところに付箋をはり、直しの徹底を図る。その日のうちに付箋を^{ゼロ}0に!
 - ・「家庭学習の手引き」を配布するとともに、点検期間を設け、改善を図る。
 - ・長期休業中の課題については後日提案する。

◇授業改善

全校児童目標

人の話を聴く力をつける。
わからないことを**人にたずねる力**をつける。
わからないと言われたら**やさしく教える力**をつける。
みんなの前で**話せる力**をつける。

- ・全校児童目標にある児童の姿をめざして、質の高い授業を創造する。
- ・J K Kの取り組みをさらに進める。